

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県

【学校名】 大牟田市立天領小学校

【テーマ】 I II III IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

進んで運動の楽しさを味わう子どもを育てる体育科学習指導

【実施学年、部、講座等】

第3学年（男子13名・女子15名） 体育科「くるっと回って 仲間と金メダル！」（マット運動）

全学年（男子167名・女子171名） 「わんぱくタイム」（朝の運動）

【目的・ねらい】

子どもが様々な運動に親しみ、その楽しさを味わい、将来にわたり豊かなスポーツライフを送ることができるようにする。

【種類】(当てはまるものに○)

各教科(体育) ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
・教科以外での取り組み(朝の運動等)

【実践内容等】

(実施内容)

実践1 第3学年体育科「くるっと回って 仲間と金メダル！」（器械運動—マット運動）

1 単元の目標

技能	○基本的な回転技と倒立技に取り組み、それぞれについて自己の能力に適した技が安定してできるようにする。 ○できるようになった技を繰り返したり組み合わせたりして、仲間と息を合わせて調子よく行うことができるようにする。
態度	○マット運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力し合い、励まし合って技の練習をすることができるようにする。
思考・判断	○基本的な回転技と倒立技の動きのポイントを理解し、自分の力に応じた練習の方法・場を選ぶことができるようにする。 ○技の組み合わせ方やつなぎ方のポイントを知って、技の組み合わせを選んだり、自己や友達のよい動きを見つけたりすることができるようにする。

2 指導の実際

(1) 「シンクロマットオリンピック」への導入

単元の初めに、「シンクロマットオリンピック」への導入を行い、学習の進め方を示した。

- めあて1 シンクロマットを楽しむ→できる技で楽しむ
- めあて2 新しい技やもう少しでできそうな技に挑戦する

単元の終わりのシンクロマットオリンピック（発表会）に向け、技の習得・上達を目指し、スパイラル型の学習を行っていくことを確認した。

(2) 「シンクロマットオリンピック」に向けた技の習得

① 今できる技でシンクロマットを行う。

各時間の始めに、教師が、タブレットPCで児童の動きを撮り、TV画面に映し出して見せるようにした。動きをスロー再生したり一時停止したりしながら「シンクロマットのポイント」に沿った評価を行い、モデルとして児童に提示した。

児童は、シンクロマットのポイントを意識しながら2人組で考えた動きを繰り返し練習した。タイミングを合わせたり、移動距離を合わせたりする様子が見られた。



TV画面での動きの提示

② シンクロマットに取り入れたい新しい技やもう少しでできそうな技に挑戦する。

選んだ技に応じた練習の場や方法を選択し、友達と動きを見合い、高め合うようにした。

学習ノートには、「練習の仕方の例」として、練習の場や方法を選択するための資料を付けた。これを使って子ども達は、どのような場をつくり、どんなことに気を付けて練習すればよいかを理解し、グループで助言し合いながら練習を行った。習得した技は、次の時間のシンクロマットに取り入れるようにした。



練習に取り組む子ども

(3) 「シンクロマットオリンピック」の開催

単元の学習の最後に、シンクロマットオリンピック（発表会）を開いた。

それまでの練習を生かす演技構成を2人で考え、発表し合うようにした。シンクロマットのポイントに沿って、2人の動きがそろっていること、技がなめらかにつながっていることなどを評価し合い、よい動きに拍手を送っていた。

シンクロマットのポイント

- ・動きがそろっている
- ・動きがきれいにずれている
- ・技がなめらかにつながっている など

実践2 全学年「わんぱくタイム」(朝の運動)

始業前に全校児童が外に出て運動する「わんぱくタイム」を年間を通して実施している。毎週火曜日と金曜日に設定し、「リレー」「長縄」を行うようにしている。リレーは学年別、長縄は主に学級別で行う。

「わんぱくタイム」は、運動の日常化・習慣化のための取組の一つで、子どもたちが定期的に運動し、体を動かす楽しさや仲間とかかわる楽しさを味わう場になっている。

(実践上の工夫点、留意点等)

実践1 第3学年体育科「くるっと回って 仲間と金メダル！」について

- ・「卓越」「友情」「尊敬」の価値の体得のため、1で行うマット運動ではなく、シンクロマット運動を教材化し、単元の終わりにシンクロマットオリンピックを位置付けた単元を構想し、次のことに

夫・留意して指導を行った。

- ① 単元の始めに、オリンピックへの動機付けを行い、それに向かって、2人組で頑張ろうという意識を持たせるようにした。
- ② 動きを互いに見合い、助言し合って高めることができるよう、学習ノートに資料「練習の仕方の例」を付け、活用させた。
- ③ 2人組での自分達の動きを見るため、ICT機器を活用した。



練習の仕方の例

実践2 全学年「わんぱくタイム」(朝の運動)について

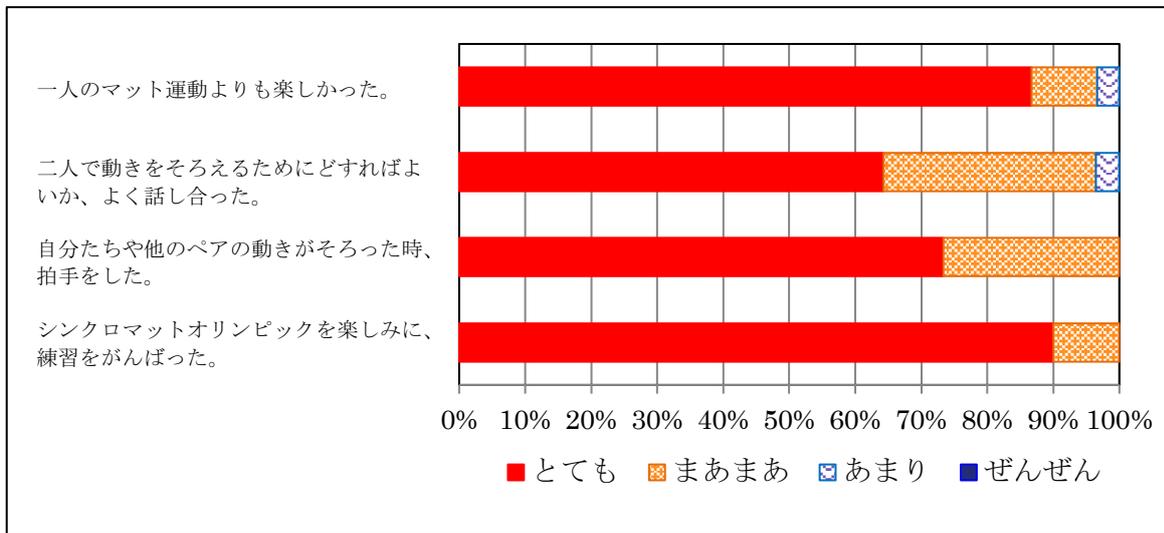
・「わんぱくタイム」では全校児童が、「リレー」、「長縄」の運動を行うようにしている。次のことに工夫・留意して指導を行っている。

- ① リレーは、場所割りを工夫し、運動場の内トラック、外トラック、トラックの周りを活用し、全学年同時にスタート、同時に終了としている。始まりと終わりに教師が言葉を発し、みんなで頑張る意識を高めている。
- ② 長縄は、時間を区切って回数を数えるなど、伸びが分かるようにしている。6年生が1年生を教えるなどのかかわりを深める場もつくっている。

(成果)

実践1 第3学年体育科「くるっと回って 仲間と金メダル!」について

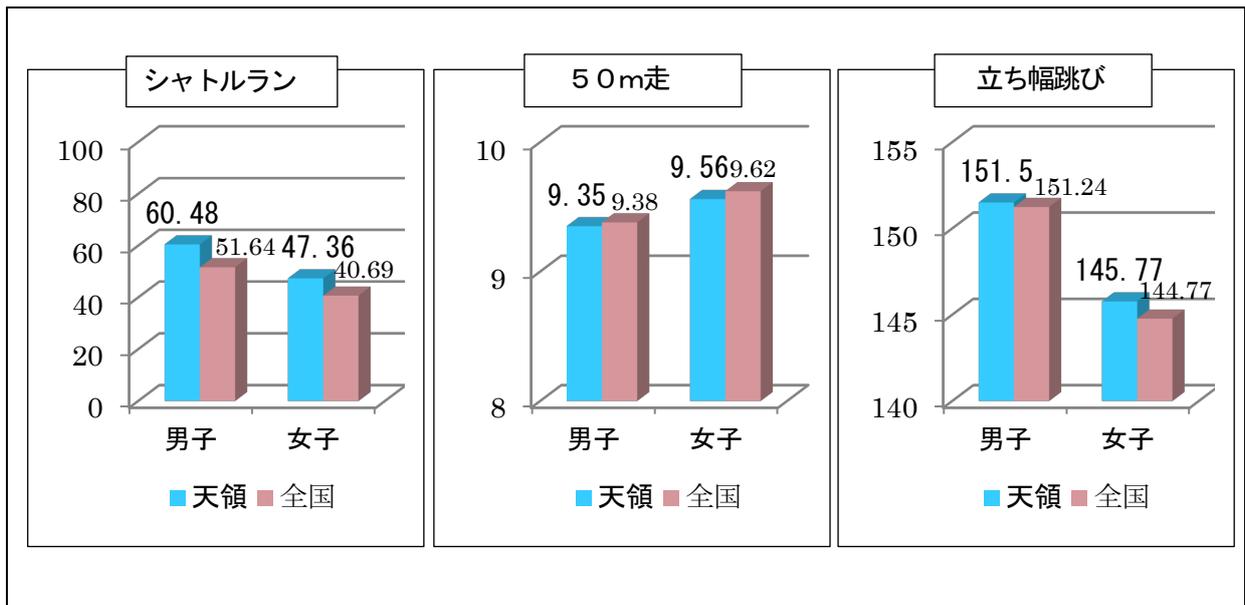
○シンクロマットオリンピックに向けて、2人組や課題別グループで練習を行う過程で、友達とのかかわりを深めながら、シンクロマットならではの運動の楽しさを味わうことができた。(グラフ)



実践2 全学年「わんぱくタイム」(朝の運動)について

○週に2回、思い切り力を出して運動することが、体力の向上につながっている。(下グラフ・全国体力・運動能力調査の結果)

○一人で運動するのではなく仲間と一緒に運動することが、互いに応援し合ったり励まし合ったりするなど豊かなかかわりを生み、人間関係づくりに役立っている。



【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- 「卓越」「友情」「尊敬」の価値を体得するには、競争や競技を行う際も、いかにして個人がそれぞれの力を発揮できるようにするか、また、チームや集団に貢献できるようにするか、ということが重要になる。運動が得意でない子どもも十分に力を発揮し、活躍できるよう、教材開発やルールや場の工夫を行っていききたい。
- 今年度は体育科学習指導と始業前・業間運動の実践を行ったが、次年度は、このほかにオリンピックそのものについての学習を学級活動や総合的な学習の時間等に位置付ける必要がある。

一人のマット運動よりも楽しかった。

二人で動きをそろえるためにどすればよいか、よく話し合った。

自分たちや他のペアの動きがそろった時、拍手をした。

シンクロマットオリンピックを楽しみに、練習をがんばった。

